

発 音

0. 音節構造 (Cấu trúc âm tiết)

ベトナム語の音節は以下の5つの要素で構成されている。基本的にひとつの音節が何らかの意味を持つ場合がほとんどなので、大切な単位である。

声調			
頭子音	介母音	主母音	末子音

単語の聞き取りに際しては、①聞き取ろうとしている音の連続がいくつの音節からなるのか、②個々の音節の声調は高いか低いか、③主母音は長いか短い、といったところから語彙の候補を絞り込んでいくことがコツである。

1. 主母音 (Nguyên âm chính)

主母音はすべての音節の核となる要素で、「単母音」と「二重母音」に分けられる。主母音は発音の際の舌の「高低」位置、「前後」位置という2つの基準で分類することができる。

二 重 母 音			
前舌		中舌	後舌
高舌	iê (ia) [ie]	ươ (ua) [iɤ]	uô (ua) [uo]
単 母 音			
前舌		中舌	後舌
高舌	i [i:]	ư [i:]	u [u:]
	ê [e:]	ơ [ɤ:]	ô [o:]
中舌		â [ʌ]	
	e [ɛ:]		o [ɔ:]
低舌		a [a:] / ă [a]	

音節の聞き取りに際しては、まず主母音の長さに注意することが重要である。基本的に *ǣ, æ* で表記される母音以外は長く発音される母音となるが、個々の母音が現れる条件によっては、それ以外の文字で表記される母音も短く発音される場合がある。例えば、末子音 *-ng, -c* が後続する場合の *u, ô, o*、末子音 *-nh, -ch* が後続する場合の *a, ê, i*、末子音 *-ng, -c* が後続する場合の *ur* は短く発音される。

解説

- a* 日本語の「ア」に近い音だが、「ア」よりも口の開きが大きいことに注意。
- e* 舌の真中に少し力を入れて口の中に大きな空間を作り出すように「エ」を発音。
- ê* 舌の前方をなるべく上顎に近づけるようにして「エ」を発音。

※ *e* と *ê* を聞き分ける際のコツは、聴覚印象として *e* は「強い」音で *ê* は「弱い」音である。それは、発音する際に、*e* が口の中に大きな空間を作るために舌の中程に強く力を入れるのに対し、*ê* は舌を突き出すように上顎に近づければよく、口の中にはそれほど力はいらないからである。

- i* 舌をなるべく上顎に近づけるようにして「イ」を発音。
- o* 唇を突き出さず、口の中に大きな空間を作り出すように「オ」を発音。
- ô* 唇を丸めて前へ突き出すようにして「オ」を発音。

※ *o* と *ô* を聞き分けるのは比較的容易く、唇の丸め方、あるいは突き出し方の度合いである程度見分けることが可能である。つまり、円唇度、突出し度が高ければ *ô* であり、低ければ *o* である。

- u* 唇を丸めて前へ突き出すようにして「ウ」を発音。
- ǣ* 舌や唇の構えは *a* とほぼ同じくし、短く発音。必ず末子音が後続する。
- â* 舌をリラックスさせて唇に力を入れず、「ア」を短く発音。必ず末子音が後続する。
- o* 舌をリラックスさせて唇に力を入れずに「オ」を発音。

ư 唇を左右に引きつつ「ウ」を発音。

iê i に短い ê を添えて発音。

語末子音・介母音の有無により、表記上以下のように書き分けられます。

末子音有り	介母音無	-iê-*
	介母音有	-(u)yê-
末子音無し	介母音無	-ia
	介母音有	-(u)ya

uơ u に短い ơ を添えて発音。

語末子音の有無により、表記上以下のように書き分けられる。

末子音有り	-uơ-
末子音無し	-ura

uô u に短い ô を添えて発音。

語末子音の有無により、表記上以下のように書き分けられる。

末子音有	-uô-
末子音無	-ua

2. 声調 (Thanh điệu)

声調はすべての音節にあって、音節全体の声の高さや声質を決める要素である。正書法上、6 種類の声調が区別される。

ベトナム語の声調は声の高さを変化させるだけでなく、喉をきしませることにより他と区別するもの (thanh ngã, thanh nặng) がある。

各音節の声調を聞き取る際には、まず、当該音節が以下の表に示す「高」系列、「低」系列のいずれに属するかを聞き分けることが重要である。

また、特に現代ハノイ方言では、いずれも「低」系列に属す thành huyền (mà) と thanh hỏi (mả) が聴覚印象的に非常に近いので、前後の文脈も加味しつつ候補を絞り込んでいく必要がある。

	平板調	屈曲調	上昇・下降調	閉鎖音終わり
高	ma [ma ^h]	mã [mã ^h]	má [ma ^h]	mát [mat ^h]
低	mà [ma ^l]	mả [ma ^l]	mạ [mạ ^l]	mạt [mat ^l]

解説

thanh ngang	ma	高く平らに発音。
thanh huyền	mà	低く下降する調子で発音。
thanh hỏi	mả	低く下降した後少し上昇する調子で発音。
thanh ngã	mã	上昇しつつ途中で喉をきしませて発音。
thanh sắc	má	低いところから徐々に上昇する調子で発音。
thanh nặng	mạ	下降しつつ最後に喉をきしませて発音。
thanh sắc tắc	mát	音節末に閉鎖音がある場合。急に上昇する調子で発音。
thanh nặng tắc	mạt	音節末に閉鎖音がある場合。急に下降する調子で発音、喉はきしませない。

3. 頭子音 (Phụ âm đầu)

全ての子音は、発音される場所（調音部位）と発音の仕方（調音方法）によって以下の表の様に分類できる。縦の列が調音方法、横の列が調音部位を表す。それぞれの枠の中に正書法のローマ字とその実際の発音を [] 内に示すが、同一枠に2つの発音記号がある場合は、左側が無声音、右側が有声音を表す。

日本人にとって聞き分けるのが難しい音として、しばしば無気閉鎖音の t [t] と有気閉鎖音の th [tʰ] が取り上げられるが、実際それらの音は、口の中を緊張させて強く発音される t [t]

と息を強く出すというよりむしろ息を「漏らす」ように柔らかく発音される th [tʰ]と理解すれば、それほど聞き分けるのが難しい音のペアではない。

むしろ、日本人がよく聞き間違えるのは、歯茎音の d [d]と l [l]の差異である。それは、しばしば日本語の「ダ」行の音に例えられる d [d]の特徴によるものであるが、実際にはその調音点（舌が上顎に接触する位置）が歯茎の頂点であり、日本語の「ダ」行音のように歯と歯茎の両方に接触している訳ではない。それによって本来日本語で歯茎をたたく様に発音される「ラ」行音と混同され、結果的に日本語の「ラ」行音に最も近い l [l]と判断されてしまう訳である。

その他、b [b]と v[v]、kh [x]と h [h]のペアも比較的日本人にとって聞き分けが難しい。前者に関しては、やはり強い b [b]と弱い v[v]という認識が重要である。後者についても、摩擦の度合いが比較的強く聞こえる kh- [x]と、日本語の「ハ・ヘ・ホ」の子音同様摩擦の度合いはそれほど強くない h [h]という様に理解しておけば、聞き分けの際参考になるであろう。

		両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無気	(p-)		t [t]		ch, tr [tʃ]	c-/k-/q- [k]	
	有気			th [tʰ]				
	有声	b [b]			d [d]			
鼻音		m [m]			n [n]	nh [ɲ]	ng-/ngh- [ŋ]	
摩擦音			ph [f] v[v]	s, x [s] d, gi, r [z]			kh- [x] g-/gh- [ɣ]	h [h]
側面音					l [l]			

解説

b 日本語の「バ」行音に近いが、しばしば（たばこを吸うように）吸い込みながら強く発音する。

m 日本語の「マ」行の音に近いが、より唇に力を入れて発音。

ph 上歯を下唇に軽く触れさせて発音するが、英語の[f]ほど摩擦が強くなく柔らかい音。

- v 上歯を下唇に軽く触れさせて発音するが、ph と同様、英語の [v] ほど摩擦が強い。
- t 日本語の「タ」行の音に近いが、破裂の際に息をもらさず、歯茎に舌の先をできるだけ強く押し付けたのを一気に離して発音。よって、「硬い音」という印象を受ける。
- th 日本語の「タ」行の音に近いが、破裂の際に軽く息を漏らしながら発音する。舌は歯茎に強く押し付けず、軽く触れるだけなので、比較的「柔らかい音」である。
- x 日本語の「サ」行の音に近い。
- s x 同様、日本語の「サ」行の音に近い。方言によっては、反り舌音 [ʃ] で発音される。
- d 日本語の「ザ」行の音に近い。
- gi d 同様、日本語の「ザ」行音に近い。表記上、母音-iê-および-i が後続する場合、gi-の i が省略され、giê-, gi と表記され[zie-], [zi]と発音されるので誤って[ze-], [yi]と発音しないように注意。
- r d-, gi-と同様 [z] で発音される。方言によって、巻き舌音 [r] で発音。
- đ 日本語の「ダ」行の音に近いが、舌をやや後の歯茎の部分に接触させて発音するので、むしろ「ラ」行音の方が近い。b と同じく、しばしば吸い込みながら発音される「強い」音である。
- n 日本語の「ナ」行の音に近いが、舌がやや後寄りの歯茎の部分に接触して発音。
- l 英語の l- に近い。英語の l- と同じく日本語の「ラ」行の音で発音するのは正しくない。日本語の「ラ」行の音はむしろベトナム語の đ- の音に似ているので注意が必要。
- ch 日本語の「チャ」「チュ」「チョ」の音に近い。
- tr ch と同様、日本語の「チャ」「チュ」「チョ」に近い音で発音される。方言により反り舌音 [ʈʂ] で発音。
- nh 日本語の「ニャ」「ニュ」「ニョ」の音に近い。

c, k, q 日本語の「カ」行の音に近いが、破裂の際に息を出さないように注意。t [t]同様、非常に「硬い」音である。後続する母音や介母音の有無によって、表記上以下のように書き分けられる。

c-	後舌母音・中舌母音の-a, -o, -ô, -u, -σ, -â-, -ă-, -uô-, -uσ-が後続する場合
k-	前舌母音の-e, -ê, -i, -iê-が後続する場合
q-	介母音が後続する場合、ただし後続母音にかかわらず、介母音は常に-u-で表記される

ng, ngh 日本語の鼻濁音の「ガ」行の音に近い。後続する母音により ngh- と表記される場合がある

ng-	後舌母音・中舌母音の-a, -o, -ô, -u, -σ, -â-, -ă-, -uô-, -uσ-および介母音が後続する場合
ngh-	前舌母音の-e, -ê, -i, -iê-が後続する場合

kh 日本語には近似の音がない。「カ」行音を発音する際に舌が上顎に接触するやわらかい部分（軟口蓋）と舌との間に、少し隙間を空けて空気を押し出すように摩擦させながら発音する。うまくいかないと h の音や k の音と間違えられることがあるので注意が必要である。

g, gh 日本語の「ガ」行音にやや近いが、発音する際の舌の位置と、その「摩擦音」としての特徴は kh と同じ。後続する母音により gh-と表記される場合がある。

g-	後舌母音・中舌母音の-a, -o, -ô, -u, -σ, -â-, -ă-, -uô-, -uσ-および介母音が後続する場合
gh-	前舌母音の-e, -ê, -i, -iê-が後続する場合*

* よって、ghi は [yi], gi は [zi] となる

h 日本語の「ハ」行の音に極めて近い。発音上、hu [hu]や hu [hi] は上下の唇を近づけ過ぎると phu, phur と混同されることがあるので注意。

4. 介母音 (Giới âm)

頭子音と主母音の間に介在する半母音 [w] を指す。表記上は後続する母音と一部の頭子音により以下のように書き分けられる。

-o-	母音 -a, -ă, -e が後続する場合
-u-	母音 -ơ, -â, -ê, -i*, -iê- が後続する場合
ナシ	上記以外の母音の前には現れない
qu-	後続母音に関わらず、頭子音が [k] の場合、qu- と表記される

介母音に関わる聞き取り上の問題は、例えば、「頭子音＋二重母音」の *cua* [kua^h] と「頭子音＋介母音＋主母音」の *qua* [kwa^h]、あるいは「頭子音＋母音＋末子音」の *túi* [tu:j^h] と「頭子音＋介母音＋主母音」の *tuý* [twi:^h]、特に、「頭子音＋二重母音＋末子音」の *cuốn* [kuon^h] と「頭子音＋介母音＋主母音＋末子音」の *quán* [kwɔn^h] を聞き分けることである。以下、聞き分けが難しいペアをいくつか挙げておく。

của / *quả*

cúi / *quý*

xui / *xuy*

cuôn / *quân*

luôn / *luân*

tuồn / *tuần*

suốt / *xuất*

ruột / *duột*

tuốt / *tuất*

5. 末子音 (Phụ âm cuối)

末子音に関しても、調音位置と調音方法によって以下のように整理する。

	唇音	歯音	硬口蓋音	軟口蓋音	唇軟口蓋音
鼻 音	m [m]	n [n]	nh [ɲ]	ng [ŋ]	ng [ɲm]
閉鎖音	p [p]	t [t]	ch [k̚]	c [k]	c [kp̚]
半母音			-i/-y [j]		-o/-u [w]

末子音に関わる聞き取り上の問題は、やはり、まず閉鎖音の聞き分けであろう。閉鎖音はそれ自体無音であるから、聞き分けるポイントは直前の母音の音色とその子音を発音する際

の視覚的特徴の有無ということになる。唇音 (m [m], p[p]) の場合は唇を閉じるので、視覚的に確認できることもあるが、それ以外の閉鎖音の場合は、唇軟口蓋音 (ng [ŋ̃m], c [k̃p]) を除いて視覚的に確認することが難しい。まず、硬口蓋音 (nh [ɲ], ch [k̃]) の場合、前の母音が極めて短く発音される上、直前に短い「イ」の音（わたり音）が聞こえるので比較的知覚しやすい。唇音同様、唇軟口蓋音の場合も唇を閉じて発音され、前の母音も短く発音されるので比較的判別しやすい。問題は直前の母音がほぼ同様に発音される上に視覚的な手掛かりがほとんどない歯音 (n [n], t[t]) と軟口蓋音 (ng [ŋ], c [k]) の区別である。唯一の物理的な手掛かりは直前の母音の微妙な音色の差ということになるが、歯音の場合は比較的明るく、軟口蓋音の場合は比較的暗い音で母音が発音されるが、その差異とて中国語の普通話ほど明瞭ではない。（ベトナム語の場合、いずれも「明るい」音で発音される傾向がある。）

唇軟口蓋音 (ng [ŋ̃m], c [k̃p]) に関してもう1点注意すべきことは、直前の母音が短く発音されると同時に、通常の母音の音色よりも少し開口気味に発音されると同時に、o, ôの場合わたり音の短い「ウ」が聞こえる。つまり、ung [uŋ̃m], uc [ụk̃p] ông [ɔ̣ŋ̃m], ôc [ɔ̣k̃p] ong [aũŋ̃m], oc [aũk̃p]となる。したがって、聞き取る際にはそれぞれの母音を一段上の広母音として (u→ô, ô→o, o→a) 聞き取ってしまいがちなので、注意が必要である。

解説

- m 母音を発音した後に両唇を閉じて [m] を発音する。閉じた唇は開かない。
- p 母音を発音した後に両唇を閉じて [p] を発音する。閉じた唇は開かない。
- n 母音を発音した後に舌先を上歯の後部と歯茎に接触させて [n] を発音する。閉鎖した部分は開放しない。
- t 母音を発音した後に舌先を上歯の裏に接触させて [t] を発音する。閉鎖した部分は開放しない。
- ng [ŋ] 母音を発音した後に舌の後部を上顎（軟口蓋）に接触させて鼻濁音の「ガ」行音を発音する。閉鎖した部分は開放しない。

- c [k] 母音を発音した後に舌の後部を上顎（軟口蓋）に接触させて「カ」行音を発音する。閉鎖した部分は開放しない。
- ng [ŋm] 母音を発音した後に舌の後部を上顎（軟口蓋）に接触させて鼻濁音の「ガ」行音を発音すると同時に唇を閉じる。よって頬が膨らむのが特徴である。閉鎖した部分は開放しない。母音 o, ô, u に後続し、母音は必ず短く発音される。
- c [kp̚] 母音を発音した後に舌の後部を上顎（軟口蓋）に接触させて [k] を発音すると同時に唇を閉じる。よって上の ng と同様頬が膨らむのが特徴である。閉鎖した部分は開放しない。上の ng と同様母音 o, ô, u に後続し、母音は必ず短く発音される。
- nh 母音を発音した後に、舌の中程を上顎（硬口蓋と軟口蓋の間）に接触させて「ニャ」「ニュ」「ニョ」に近い音を発音する。閉鎖した箇所は開放しない。母音 a, ê, i に後続し、母音は必ず短く発音される。
- ch 母音を発音した後に、舌を「キ」の音を発音する要領で上顎に接触させる。閉鎖した箇所は開放しない。-nh と同じく母音 a, ê, i に後続し、母音は必ず短く発音される。
- i, y 母音 i を発音するときの舌の位置で調音される半母音。以下の条件で、表記上 i と y の 2 通りに書き分けられる。

-i	母音-a, -o, -ô, -u*, -œ, -uô, -uœ に後続する場合
-y	母音の -ă**, -â, に後続する場合

* したがって、-ui は母音 [u] と末子音 [j] の結合、-uy は介母音 [w] と母音 [i] の結合ということになり、前者は比較的 -u- の部分が長く、後者は比較的 -y の部分が長く発音される。

** この場合、母音記号が省略されて、-ay と表記される。したがって、-ai と -ay の差異は母音の長短の差異ということになり、-ai は a が長く、-ay は a が短く発音される。（sai「間違った」、say「酔った」）

- o, u 上下の唇を接近させて発音する半母音。以下の条件で、表記上 o と u の 2 通りに

書き分けられる。

-o	母音-a, -e に後続する場合
-u	母音の -ă*, -ê, -i, -îê, -â に後続する場合

- * この場合、母音記号が省略されて、-au と表記される。したがって、-ao と -au の差異は母音の長短の差異ということになり、-ao は a が長く、-au は a が短く発音される。（sao「星」、sau「後ろ」）